

ニュージーランド学校体育の「スポーツ学習」におけるオリンピズムの位置づけ

Contribution of Olympism to Sport Studies in New Zealand Schools Physical Education

田原 淳子, 池田 延行

Junko TAHARA and Nobuyuki IKEDA

はじめに

ニュージーランドは、オリンピック教育を学校のカリキュラムと密接に結びつけて実施している国として注目される。このことは、学校教育におけるオリンピック教育の高い実施率を意味する。ニュージーランドにおいてそれがどのように実現されているのかを具体的に明らかにしていくことで、日本の学校におけるオリンピック教育の実施に向けた有益な示唆を得ることができるであろう。

ニュージーランドの学校におけるオリンピック教育の全体像を明らかにするために、筆者らは、まずニュージーランドの教育システムと保健体育カリキュラムの概要を明らかにした(田原ほか, 2007)。これを土台として、本研究では、保健体育カリキュラムの中の主要な学習分野の一つである「スポーツ学習」の指導書を取り上げる。「スポーツ学習」では、体育における態度と価値観を学習し、カリキュラムの学習目標に沿った形でオリンピズムの理解と態度にかかわる教育が実施されている。

本研究は、ニュージーランドの初等学校高学年を対象にした「スポーツ学習」がオリンピズムと

どのように関連づけられているのかを明らかにするものである。主な資料は、保健体育におけるスポーツ学習分野の指導書(Health and Physical Education THE CURRICULUM IN ACTION)『オリンピズム—体育における態度と価値観—(OLYMPISM: ATTITUDES AND VALUES IN PHYSICAL EDUCATION)』を使用した。同書は、カリキュラムと同様に教育省から発行されている。

I. ニュージーランドの保健体育カリキュラムの 基本理念と「スポーツ学習」分野

ニュージーランドでは、保健体育の学習を通して、生徒が情報に基づく判断を下し、さらに自分個人の健康、他人の健康、地域全体の健康に貢献するように行動するための知識、技能、態度・考え方、意欲を養成することをねらいとしている(Ministry of Education, 1999 p.6)。

同国の保健体育カリキュラムを理解する上で重要なのは、4つの基本概念〔①ハウオラ(hauora健康) ②健康増進 ③社会環境的観点 ④ハウオラを増進する態度・考え方と価値観の重要性〕と4つの構成要素(strand)〔①個人の保健衛生と身体発育 ②動作概念と運動技能 ③対人関係

④健全なコミュニティと環境]である。構成要素については、学校教育の全段階にわたって達成目標の進行度が設定されている。

このような枠組みの中で、生徒は保健体育において7つの主要分野を学習する〔①精神衛生 ②セクシュアリティ教育 ③食品栄養 ④ボディケアおよび身体の安全 ⑤身体活動 ⑥スポーツ学習 ⑦野外教育〕。「スポーツ学習」の分野においては、生徒がスポーツに関連した態度・考え方や信念、実践に影響を及ぼす社会的、文化的、経済的、環境的要因を理解し、個人的な観点や学校および社会全体の観点から、批判的にスポーツの効果を考察することをねらいとしている（Ministry of Education, 1999 pp.44-45）。また、学校スポーツを効果的に推進、組織化することによって、生徒のニーズを反映し、全生徒が次に示す機会を確実に得るようにすることが必要であるとされている（Ministry of Education, 1999 pp.44-45）。

- ・生徒の興味と能力のなかで最高レベルのものへの参加
- ・楽しみと達成の経験
- ・有能で熱心な参加者になること
- ・あらゆる状況での（最も広い語義での）フェアプレーの実践
- ・競争の経験と管理

また、スポーツ学習において、生徒には次のような能力を養成する機会が必要とされる（Ministry of Education, 1999 pp.44-45）。

- ・さまざまなスポーツ上の役割に参加するための技能（選手、コーチ、審判、管理運営者など）
- ・協調的ながら競争の激しいスポーツ環境への対応に役立つ建設的な態度・考え方、価値観、行動
- ・科学・技術・環境が競技成績に寄与することを確認し、批判する技能
- ・個人および社会に対してスポーツが持つ社会的・文化的重要性を確認し、議論する技能（態度・考え方、価値観、特定の実践とその

効果、メディアの影響力との関連)

II. 「スポーツ学習」の指導書

スポーツ学習の指導書は、『ニュージーランド保健体育カリキュラム』の実施を助け、教師が生徒の特定の学習ニーズに見合った作業ユニットを作成できるようにアイデアを提供するものである（Ministry of Education, 200, p.4）。この指導書は、スポーツ学習プログラムの中心にオリビズムをすえて、スポーツおよび身体活動の教育的・社会的価値について学習する機会と、カリキュラムにまとめられた態度と価値観を探求する機会を生徒に与える方法を提示している（Ministry of Education, 2004, p.4）。指導書の構成内容を以下に示す。

1. 構成内容

スポーツ学習の指導書「オリビズム—体育における態度と価値観—」の構成

はじめに

- ・人類の価値ある活動としてのスポーツ
- 本書の利用法

オリビズムに関連する態度と価値観について学習する機会を提供するのはなぜか
オリビズムと「ニュージーランド保健体育カリキュラム」のつながり
学習プログラム立案時における配慮点
生徒は何を学習する必要があるのか
学習体験案

- ・オリビズムの導入
- ・身体的、心的、情緒的、社会的、精神的な健康に対する前向きで責任感のある態度を育む
- ・他者の権利を尊重する気持ちを育む
- ・コミュニティ内の他者および環境に配慮する気持ちを育む
- ・社会的正義感を育む

2. スポーツの捉え方

指導書では、スポーツが人類にとって価値ある

活動であると捉え、アーノルド (Arnold, 1996) の文献を参考に、参加者が次のように行動するとき、スポーツは価値ある人間的な行動になっている (Ministry of Education, 2004, p.4)。

- ・ルールを順守する
- ・特定のスポーツの本質的な目的を追求する
- ・社会的に人と関わる
- ・個人間および団体同士の競争を含む競技で競い合う
- ・身体能力を発揮する
- ・道徳的・倫理的にスポーツを実践する

また、世界アンチ・ドーピング機構の資料を参考に、スポーツの社会的・文化的価値を以下のように説明している (Ministry of Education, 2004, pp.4-5)。

○スポーツは、人により、人のために創られる

スポーツは、それがもたらす固有の喜びを求めて人々が行う活動である。参加者がルールを尊重して皆が公正にプレーできるとき、スポーツは高く評価され、人々の暮らしとコミュニティを豊にする。

○スポーツは楽しい

楽しむためにスポーツをすることこそ、スポーツの概念の中心である。スポーツには、喜びと精神の高揚をもたらす力がある。

○個性を育むスポーツ

教育を実施し、若者がチームワーク、努力、誠実さ、勇気、公正性といった価値観を養う機会を創出することにより、スポーツを通じて個性を育むことができる。スポーツにおいて、人は挑戦し、失敗し、再挑戦する意欲を試される。このことは、持てる力を最大限に発揮する力を養う。

○健康のためのスポーツ

頻度と質の高い身体活動を伴うスポーツや競技会は、健やかな人間の育成に役立つ。

○フェアプレーのためのスポーツ

スポーツはアスリートのためにあり、アスリートは仲間や対戦相手も公正にプレーしていると知ったうえで、自分が公正に、正々堂々と、安全な

状態で能力の限界まで競えると確信できる必要がある。

○卓越のためのスポーツ

スポーツは、各個人に自らの能力と必要性の範囲内で卓越を迫及するよう促す。

○コミュニティのためのスポーツ

スポーツはコミュニティを作る。世界中で、若者、その両親、コーチ、ボランティア、サポーターがスポーツによってひとつに結ばれ、友人や隣人となる。

○スポーツは平和

スポーツは国同士のコミュニティを構築する。スポーツ・フェスティバルや競技会は、共通の目標と国際理解の追求において、人々をひとつにまとめる。

以上のように、スポーツには多様な価値と可能性があり、保健体育で学習するにふさわしい内容であることが示されている。

3. オリンピズムの理解

オリンピズムについては、国際オリンピック委員会 (IOC) による『オリンピック憲章』に準拠したニュージーランドオリンピック委員会の資料 (New Zealand Olympic Committee, 2000) を参考に、次のように理解されている (Ministry of Education, 2004, p.4)。ただし、- [] 内はマオリ語によって表記されている内容である。

○オリンピズムは、スポーツと文化、教育を融合することで、以下を基盤とする生活を推進する。:

- ・肉体、意志、人格 (character) のバランスの取れた発達 - [ハウオラ = 健康]
- ・努力のうちに見出される喜び - [汗をかいて遠くまで進む喜び]
- ・他者にとって良い手本になることの教育的価値 - [指導者になることの利益]
- ・忍耐、寛容、結束、友情、非差別、他者への敬意という普遍的な倫理の順守

○オリンピズムの目標

オリピズムは、人間の尊厳を重視する平和な世界の建設において不可欠な手段として、スポーツを人々のバランスの取れた発達の促進に役立つ。

○オリンピック・ムーブメントの目標

オリンピック・ムーブメントは、(あらゆる類の)差別のないスポーツを通じて若者を教育することにより、またオリンピック精神の下で、より良い、より平和な世界の建設に貢献することを目指している。その実現には、友情、結束、フェアプレーの精神に基づく相互理解が必要になる。

4. カリキュラムとオリピズムとの関係

ニュージーランドのカリキュラムでは、態度と価値観の重要性が強調されている (Ministry of Education, 1999, p.30)。オリピズムは、スポーツを通じて自己をバランスよく向上させ、他者と良好な関係を持ち、倫理的な態度を養うという、スポーツがもつ教育的・文化的意義を志向する思想である。その意味で、ニュージーランドの保健体育における4つの基本概念のひとつである「ハウオラ(健康)を増進する態度と価値観」とオリピズムは密接に関連しているといえる。オリピズムについて学ぶことが、スポーツと体育から切り離すことのできない態度と価値観への理解を深めることに役立つと説明される所以である (Ministry of Education, 2004, p.7)。

「スポーツ学習」では、生徒がスポーツや競技、身体活動を通じて、積極的な社会的態度、価値観、行動形態を養う方法を考えられるような活動を勧めている。その結果、生徒は理解と相互尊重の下、他の生徒と協力する力を伸ばし、友情、結束、フェアプレーの精神でベストを尽くすことができるようになり、さらにスポーツの場を理解し、スポーツが社会のあらゆる層、あらゆる文化、またあらゆる能力を備えた人々に及ぼす効果を理解することにも役立つという (Ministry of Education, 2004, p.7)。

スポーツを通じて、自己から他者、社会へと視野を広げて態度と価値観を習得していく「スポーツ学習」は、その目的において次に示すオリンピック・ムーブメントと根本的に共通していることが見出されるであろう。

「オリンピック・ムーブメントは、スポーツ、文化、教育の融合を推進し、人々が自らと世界のあらゆる人々の生活を向上させるのを助ける。オリンピック理念はこの運動の中核を成し、オリンピック競技大会はこうした理念を称えている。競技大会自体が、平和、理解、協力を促すような方法で人々が交わる機会なのである。」 (Ministry of Education, 2004, p.7)

生徒はオリピズムを学習し、そこで理解したことをスポーツ学習のなかで応用していくにつれて、カリキュラムに記載されている以下の態度と価値観 (Ministry of Education, 1999, p.34) を目指して努力するようになるという (Ministry of Education, 2004, p.8)。

○身体的、心的 (mental)、情緒的、社会的、精神的 (spiritual) な健康に対する積極的で責任ある態度

- ・自分自身と他者の評価
- ・信念について進んで振り返ろうとする気持ち
- ・品位、献身、忍耐力、勇気の強化

○他者の権利を尊重する気持ち

- ・さまざまな能力の容認
- ・異なる見解の認知
- ・忍耐、rangimarie (ランギマリエ=平和)、心を開くこと

○コミュニティ内の他者および環境に配慮する気持ち

- ・協調とawhina (アフイーナ)
- ・aroha (アロハ=愛)、manaakitanga (マナーアキタンガ)、配慮、思いやり、mahinga (マヒンガ) の適用
- ・建設的な挑戦的課題と競争
- ・積極的な関与と参加

○社会的正義感

- ・公正性
- ・包括性および非差別的な行為

Ⅲ. 日本のオリンピック教育推進への示唆（ために代えて）

ニュージーランドの「スポーツ学習」の特徴は、以下の4点にまとめることができる。

1) 「スポーツ学習」の理念としてのオリンピズム

スポーツ学習の土台となる理念がオリンピズムに置かれている。このことは、オリンピックに対する理解とも深くかかわっている。オリンピック大会を高いレベルの国際競技大会として捉えるだけでなく、スポーツを通じた教育的・文化的思想であるオリンピズム（オリンピックの理念）の存在を認識し、その理念が目指すべき方向性を示すオリンピック・ムーブメントの延長線上にある大会として、理解されていることに注目しなければならない。それによって、オリンピズムが学校におけるスポーツ学習の中心的な理念となりうるからである。

2) 態度と価値観を育てる教育

知識や運動技能の習得以外に、態度と価値観を育てることを保健体育の目標の一つの柱としている点が注目される。態度と価値観の内容は、スポーツの多様な価値と可能性によって導き出され、その方向性はオリンピズムに合致している。

3) 個人から他者、コミュニティへの視野の広がり

スポーツ学習の目的が個人の身体能力の発達に置かれるのは理解しやすいが、自己の向上のみならず、他者理解、自己と他者との良好な関係構築、コミュニティや社会におけるかかわり・貢献にまで意識を広げて学習させていることは重要である。ニュージーランドが原住民マオリ族と白人との二文化社会であり、教育においても異文化理解にとりわけ力を注いできたということも、その背景として影響しているのかもしれない。少子化、

情報化による孤独感の増幅やコミュニケーション不足による社会問題、さらにはグローバル化が進む今日においては、他者やコミュニティとのかかわりを意識した教育が求められている。そのためにスポーツが果たすことのできる役割は小さくない。

4) オリンピズムを体得するための機会の提供

スポーツ学習で体得することが目指されている態度や価値観を知識として習得するだけではなく、実際に身につけていくために、様々な機会が提供されている。スポーツ学習における多様な機会をオリンピズムを体得する場として意識づけることで、「態度と価値観を育てる」という学習目標を達成しようとする意図が読み取れる。

今後の研究課題としては、「スポーツ学習」の指導書において提示されている、オリンピズムを中心理念とする学習プログラムの内容とその具体的な展開例について検討すること、さらにそれを本研究で取り上げた初等学校高学年と、中等学校の場合とを比較検討することである。

引用・参考文献

- Arnold, P.J. (1996) Olympism, Sport, and Education. *Quest*, vol.48 no.1 (February), pp.93-101.
- Ministry of Education (1999) *Health and Physical Education in the New Zealand Curriculum*, Learning Media, Wellington, New Zealand.
- Ministry of Education (2004) *Health and Physical Education The Curriculum in Action Olympism: Attitudes and Values in Physical Education*, Learning Media, Wellington, New Zealand.
- New Zealand Olympic Committee (2000) *Understanding Olympism*. Wellington: New Zealand Olympic Committee.
- 田原淳子・池田延行・今野賛・田中宏和・朴鍾鎮 (2007) ニュージーランドにおける学校保健体育－日本におけるオリンピック教育推進の手がかりを求めて－. *国土館大学 体育研究所報* 26:43-48.